

表紙裏（新しき世界へ 1968 年 6 月号）

おろかなるもの

「おろかなるもの、思うこと多し」 芭蕉

思うこと多きものはおろかなる者である PU は、ものを思うのではない。もの思わざるものである。神を思うものである。いや神を見るものである。神に帰るものである。まことに「神返る」（考える）ものは幸せなるかな！「考える」とは無一物になることである。神は無一物である。所有や権利や、印形や公正証書を要さない。考えるとは全体になることであるから……

（永遠の子供 昭和十九年九月発行）

本文の複写、複製、転載、その他いかなる方法による使用の際には日本 CI 協会にご相談ください